

1. サロベツ湿原の変遷

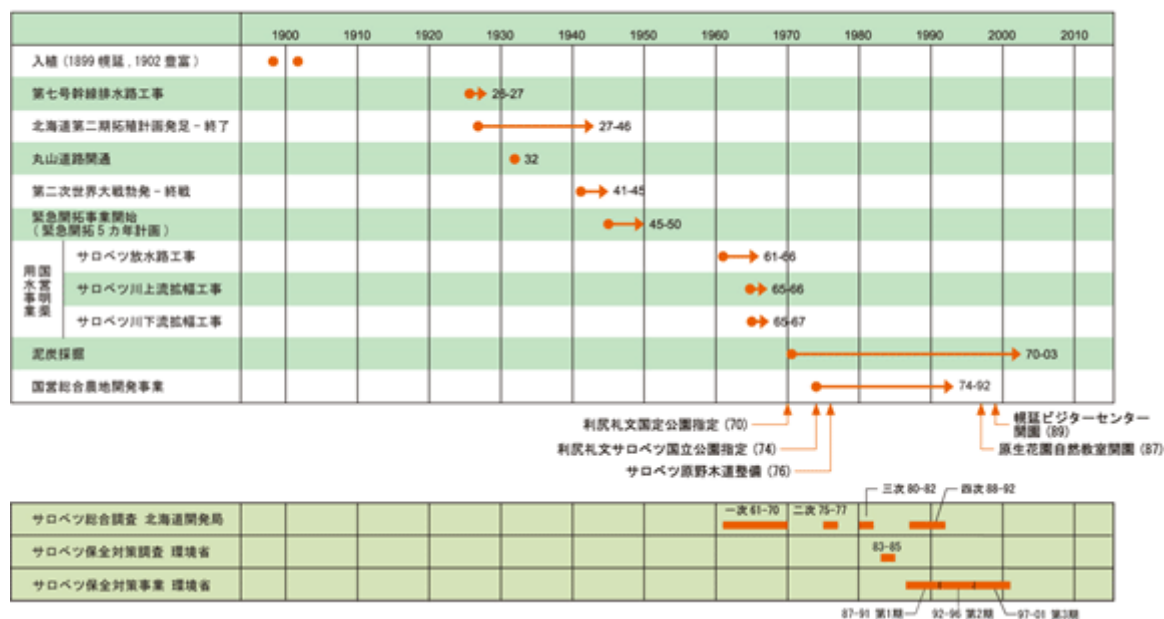
1.1 開拓の歴史

サロベツ原野の中央部周辺では、過去に図 1-1 および表 1-1 に示すような開発事業が行われました。これらの事業は湿原の姿に少なからず影響を与えており、工事の実施から数十年以上経った現在の航空写真からもその痕跡を見ることができます。



図 1-1 サロベツ原野における開発事業

表 1-1 サロベツ原野における開発年譜



1.2 サロベツ湿原の自然環境の変遷

1.2.1 サロベツ湿原周辺の土地利用

空中写真判読によって流域全体の土地利用を 1947 年と 1999 年について比較すると、低地では、1947 年当時は湿原が広く分布していましたが、1999 年ではその多くが農地（牧草地）に変化しています。山地では、1947 年当時に広くみられた天然林の多くが 1999 年に人工林に変化している。これら林相図から集計した植生・土地利用の円グラフにも、湿原（26%→11%）と天然林（58%→35%）の減少に対し、農地（10%→35%）と人工林（6%→19%）の増加が顕著に現れており、この間に農林業を目的とした大規模な土地開発が行われたことが認められます。

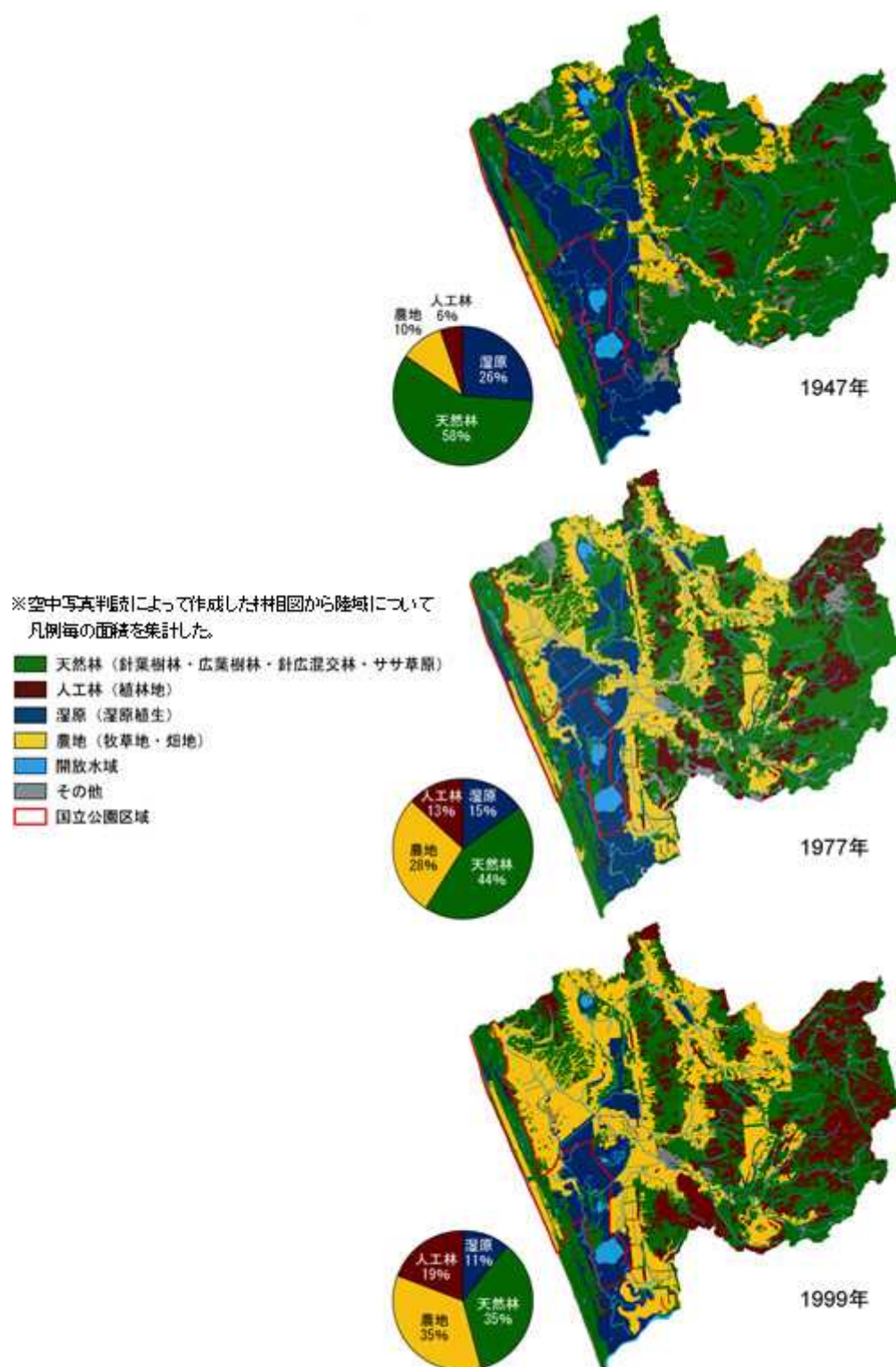


図 1-2 サロベツ湿原周辺の土地利用

1.2.2 湿原面積の減少

湿原面積の推移に着目すると、1947年の時点でサロベツ原野内に約15,000ha存在した湿原が、1999年に約6,700haまで減少し、約55%の湿原が消失しました(図1-3)。

湿原面積の推移を見ると(図1-4)、特に1964年から1975年の間に湿原面積の顕著な減少がみられます。

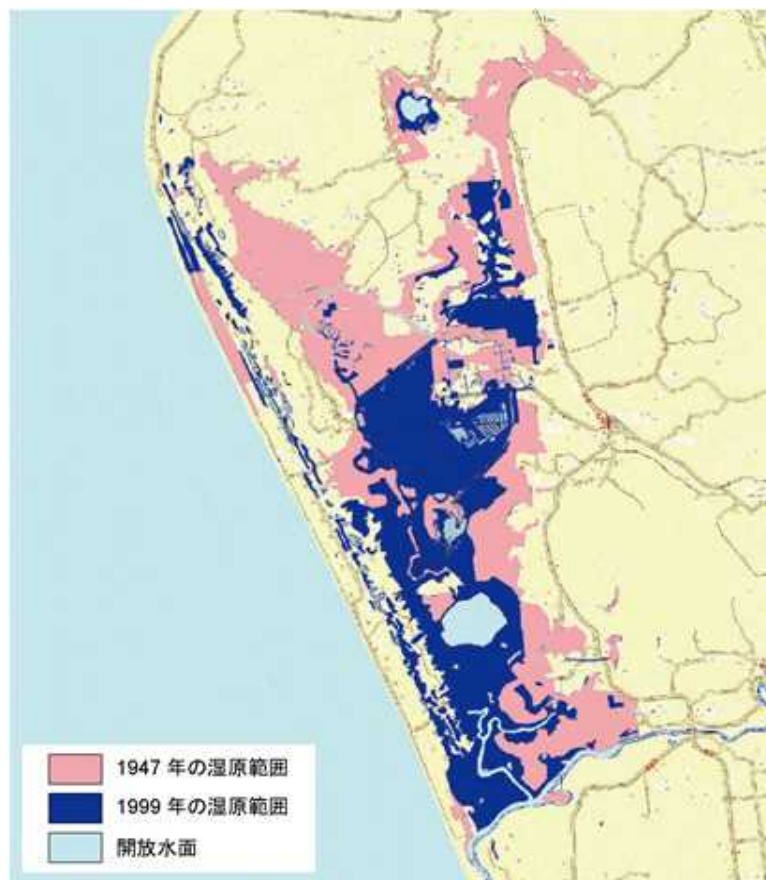


図1-3 サロベツ原野の湿原範囲の変化

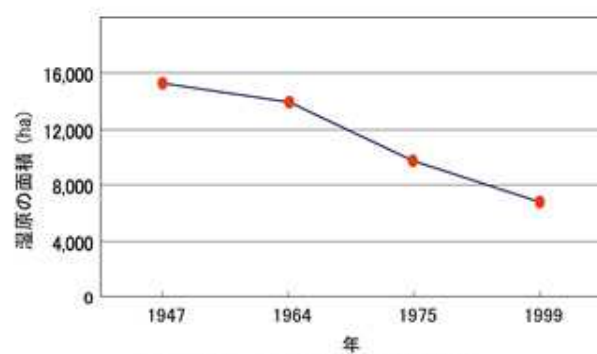


図1-4 サロベツ原野の湿原面積の推移

(注) 湿原面積は航空写真判読により作成した植生区分図より算出した

1.2.3 高層湿原の減少

サロベツ原野は、融雪出水時には広く冠水する低湿地であり、生産性の低い土地でした。しかし、サロベツ放水路工事や上下流の拡幅工事等による一連の排水事業により、河川水位の低下、冠水範囲に減少傾向がみられます。下図は、上サロベツ湿原中心部に関して 2000 年の航空写真から判読した高層湿原域と、1964 年空中写真と北海道未開発泥炭地調査(1963)のデータより推定した潜在的高層湿原域を表しています。この判読結果を集計した結果、上サロベツ湿原の中心部に存在したサロベツ最大の高層湿原については、その面積が約 1400ha から 562ha に減少(約 60%の高層湿原が消失)したことがわかります。

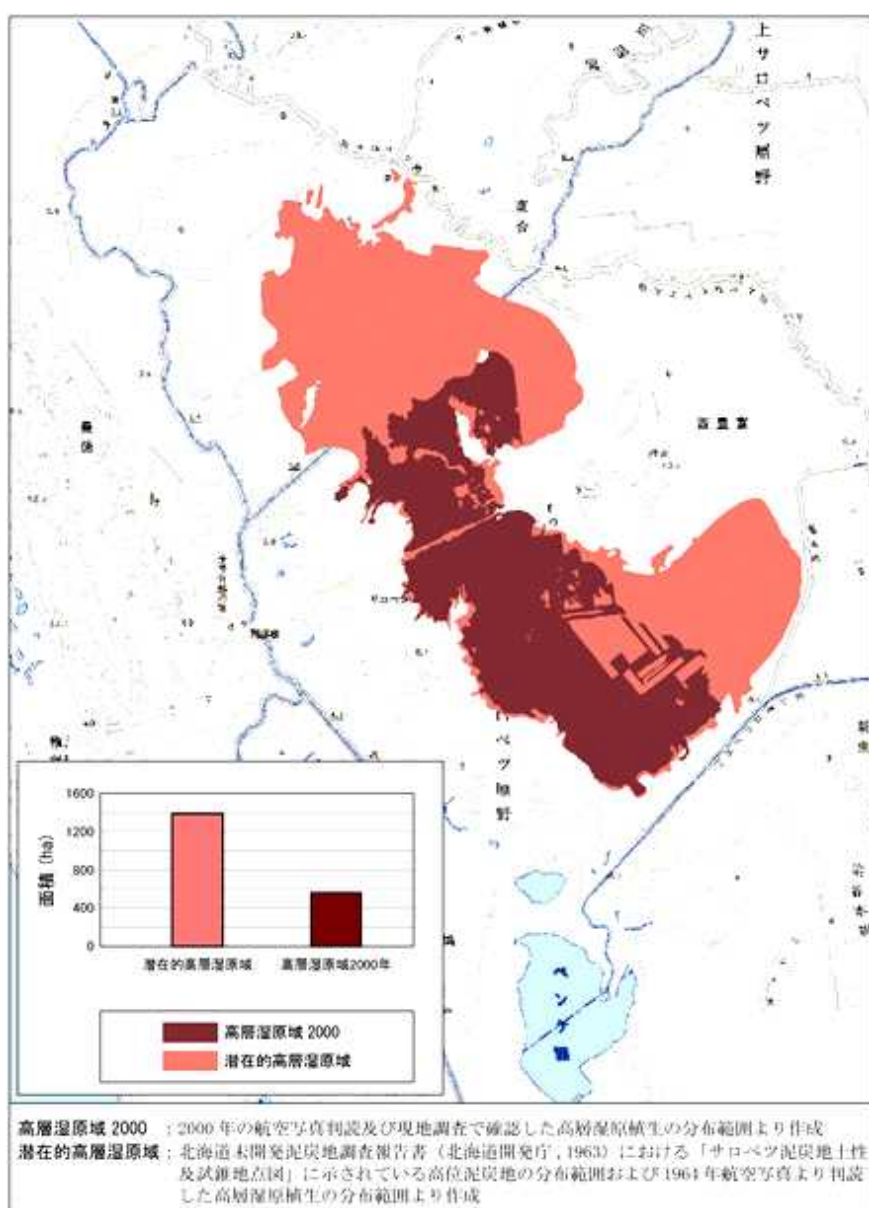


図 1-5 高層湿原面積の推移